

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●桜花賞はエンブroidアリーが優勝

4月13日(日)に行われた桜花賞(GⅠ)ではエンブroidアリー(牝3歳/美浦・森一誠厩舎)が優勝、GⅠ初制覇を果たしました。開業2年目となる森調教師にとっても初のGⅠ制覇。鞍上のJ.モレイラ騎手(ブラジル)は昨年もステレンボッシュで桜花賞を制しており、同レース連覇は史上7人目、短期免許を取得して来日中の外国人騎手としては初の快挙となります。

●団野大成騎手がJRA通算300勝を達成

4月13日(日)の2回阪神6日・第3レースではスレッドザニードルが1着となり、同馬に騎乗した団野大成騎手(栗東・斉藤崇史厩舎)は、現役47人目となるJRA通算300勝(4171戦目)を達成しました。

●国枝栄調教師がJRA通算1100勝を達成

4月13日(日)の1回福島2日・第7レースではバードウォッチャーが1着となり、同馬を管理する国枝栄調教師(美浦)は、史上10人目となるJRA通算1100勝(延べ9246頭目)を達成しました。

●田中勝春調教師がJRA初勝利をあげる

4月13日(日)の1回福島2日・第11レースとして行われた福島民報杯ではシリウスコルトが1着となり、同馬を管理する田中勝春調教師(美浦)はJRA初勝利(延べ13頭目)をあげました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●東京スプリント(大井)でエートラックスが約1年ぶりの勝利

東京スプリント(JpnⅢ、4月16日、大井、1200m)は、2番手から直線なかばで先頭に立った4番人気のエートラックス(J.モレイラ騎手=ブラジル、牝4歳、父ニューイヤーズデイ)が、2番人気のサンライズホークの追撃をクビ差で凌ぎ、兵庫チャンピオンシップ(JpnⅡ)以来となる重賞制覇。1番人気のガビーズシスターは5着、ダノンスコーピオンは6着、ラブタスは7着でした。

●オケマルが菊水賞(園田)で無敗を継続【各地の主要3歳重賞】

菊水賞(4月2日、園田、1700m)は、先手を取ったオケマル(牡、父ニューイヤーズデイ)が後続を8馬身引き離し、単勝元返しの支持に応じてデビュー以来の連勝を6に伸ばしました。ネクストスター中日本(4月1日、笠松、1400m)は、中団から4コーナー手前で先頭に立った2番人気の愛知所属馬ケイズレーヴ(牡、父ブリックスアンドモルタル)がそのまま押し切って初の重賞勝ち。ネクストスター北日本(4月6日、水沢、1400m)は、中団から差を詰めた1番人気の北海道からの遠征馬バリウィール(牡、父フォーウィールドライブ)がゴール前の接戦をハナ差で制し、同じ水沢の南部駒賞に次ぐ重賞タイトルを獲得。ル・プランタン賞(4月6日、佐賀、1800m、牝馬)は、2番手を進んだ4番人気の兵庫からの遠征馬オモチチャン(父アメリカンベイトリオット)が、逃げた単勝1.1倍で圧倒的人気のドライブアウェイ(高知)を2周目4コーナーで捉えて3馬身差を付け、重賞初制覇を果たしています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1クイーンエリザベスS～ヴィアシスティーナがG1・9勝目

現地4月12日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われたG1クイーンエリザベスS(3歳上、芝2000m)は、ヴィアシスティーナ(牝7歳、父ファストネットロック、C.ウォーラー厩舎)がJ.マクドナルド騎手の手綱で中団から鋭く抜け出して優勝しました。日本のローシャムパークは6着、ジオグリフは13着に終わりました。勝ったヴィアシスティーナは2023年7月にアイルランドのプリティボリーS(芝2000m)でG1初制覇。同年12月にセールで約5億3000万円で落札されてオーストラリアに移籍しました。オーストラリアでは移籍後初戦となった昨年3月のランヴェットS(芝2000m)でG1勝利を収めると、その後も8馬身差&コースレコードタイムで制した昨年10月のコックスプレート(芝2040m)や連覇を果たした前走のランヴェットSなど8つのG1に優勝。これがキャリア通算9つ目のG1制覇となりました。

●G1アップルブロッサムH～ソーピードアンナが快勝

4月12日にアメリカ・アーカンソー州のオークローンパーク競馬場で行われたG1アップルブロッサムH(4歳上牝、ダート1700m)は、昨年の米年度代表馬ソーピードアンナ(4歳、父ファストアンナ、K.マクピーク厩舎)がB.ヘルナンデスJr.騎手を背に4馬身1/4差で快勝。昨年9月のG1コティリオンS(ダート1700m)、11月のG1ブリーダーズCディスタフ(ダート1800m)、今年3月のG2アゼリS(ダート1700m)に続く4連勝としました。